1） 大気環境

(1)一般大気環境測定局での常時監視

市内3箇所に栃木県が一般大気環境測定局を設置して、私たちの身の回りの大気環境を測定しています。測定局と測定項目は次の通りです。

出典：栃木県大気汚染常時監視結果報告書

測定局＼測定項目	二酸化硫黄 SO_2	二酸化窒素 NO_2	オキシダント O_X	非メタン炭化水素	浮遊粒子状物質 SPM	微小粒子状物質 PM2.5	風向・風速
日光消防署			○				○
今市小学校	○	○	○	○	○	○	○
日光市役所藤原行政センター			○				○

※一酸化炭素（CO）については、測定されていません。

【測定結果】

・光化学オキシダント（Ox）　上記3箇所の測定局で令和元年度において環境基準は未達成でした。なお、県内の他の測定局でも達成したところはありません。

光化学スモッグについては、日光市域の該当する県北西部では、令和2年度の注意報の発令はありませんでした。

・その他の項目（NO_2、SPM）　二酸化窒素、浮遊粒子状物質の測定項目については、長期的評価及び短期的評価ともに環境基準を達成しています。

(2)自動車排出ガスの監視

市内1箇所に栃木県が自動車排出ガス測定局を設置して、自動車の排出ガスの影響を測定しています。測定局と測定項目は次の通りです。

出典：栃木県大気汚染常時監視結果報告書

測定局	二酸化窒素 NO_2	浮遊粒子状物質 SPM
春日町分庁舎	○	○

※二酸化硫黄（SO_2）、一酸化炭素（CO）、非メタン炭化水素（NMHC）については、測定されていません。

【測定結果】

・浮遊粒子状物質（SPM）　令和2年度においては、長期的評価及び短期的評価が環境基準を達成しています。

(3)有害大気汚染物質の監視

栃木県が一般大気環境測定局を設置して、大気中のダイオキシン類を測定していますが、市内では測定していません。

(4)酸性雨

栃木県が市内1地点（丸山浄水場）で、酸性雨自動測定装置による降水量0.5㎜ごとのpH、EC（電気伝導度）の常時監視及び、ろ過式採集装置による1ヶ月単位の酸性降下物量の調査をしました。同調査は、平成18年度で終了しました。

平成18年度の調査結果は次のとおりです。一般的にpH5.6以下の雨が酸性雨とされ、平均値も、大方の採取期間においても、酸性雨を示していると考えられます。

【酸性降下物量調査結果（平成18年度）】　出典：栃木県 平成18年度酸性降下物量調査結果

採取期間 平成18年度	降水量 (mm)	降下量 (mg／m²) H^+	NH_4^+	Ca^{2+}	Mg^{2+}	Na^+	K^+	SO_4^{2-}	NO_3^-	Cl^-	pH	EC (μS/cm)
04/11 ～ 05/09	106	0.29	35.3	109	13.9	31.3	9.78	308	157	50.4	5.56	15.2
05/09 ～ 06/06	95.3	0.92	36.7	23.7	5.39	8.35	19.1	152	113	19.9	5.02	12.1
06/06 ～ 07/04	178	3.50	39.9	39.8	6.28	6.39	20.9	264	178	27.8	4.71	13.6
07/04 ～ 08/01	235	2.27	9.32	7.02	2.77	4.08	11.9	138	91.8	16.5	5.02	6.09
08/01 ～ 09/05	96.9	0.23	44.9	25.2	3.61	13.2	16.6	112	99.3	26.1	5.62	8.81
09/05 ～ 10/10	333	3.27	36.1	12.3	5.17	8.40	9.70	188	136	21.2	5.01	6.20
10/10 ～ 11/07	133	0.32	4.74	12.5	2.71	4.01	63.3	60.2	46.8	22.6	5.62	4.57
11/07 ～ 12/05	107	0.67	11.0	16.0	3.09	11.9	11.5	71.8	57.7	22.8	5.20	7.12
12/05 ～ 01/09	198	0.46	1.41	22.6	5.43	25.9	5.22	69.8	27.0	45.8	5.63	3.69
01/09 ～ 02/06	1.54	0.00	2.41	3.99	0.82	6.57	2.66	13.7	9.83	10.6	6.07	68.1
02/06 ～ 03/06	26.1	0.68	22.4	22.2	5.36	24.2	6.24	106	102	36.0	4.58	33.8
03/06 ～ 04/09	73.4	0.31	53.8	99.0	14.9	39.7	14.9	269	237	61.5	5.38	22.2
年　計	1583	12.92	298	393	69.5	184	192	1752	1257	361	－	－
平　均	132	1.08	24.8	32.8	5.79	15.3	16.0	146	105	30.1	5.10	16.8
加重平均	－	1.66	25.0	28.3	5.58	13.1	16.5	159	110	28.8	5.09	9.00
最　大	333	3.50	53.8	109	14.9	39.7	63.3	308	237	61.5	6.07	68.1
最　小	1.54	0.00	1.41	3.99	0.82	4.01	2.66	13.7	9.83	10.6	4.58	3.69

市内1地点（丸山浄水場）で、栃木県が1ヶ月単位の湿性沈着量の調査を、平成19年度から新たに実施しています。

平成30年度の湿性沈着量の調査結果（平均値）は次の通りです。同調査は、平成30年度で終了しました。

【湿性沈着量調査結果（平成30年度）】　出典：栃木県保健環境センター年報第24号(2019)

測定地点	pH	EC	SO_4^{2-}	NO_3^-	CL^-	NH_4^+	Na^+	K^+	Ca^{2+}	Mg^{2+}
		μS/cm	mg/L/月							
日光市	5.59	4.70	0.38	0.39	0.29	0.09	0.17	0.05	0.15	0.03

(5)ばい煙発生の監視

市では、市内事業場から発生するばい煙を測定し、適正なばい煙対策を指導しています。

平成30年度には8箇所の測定を行いました。令和元年度からは、事業場がばい煙等自主分析結果を市へ提出し、突発的な分析を要する事案が発生した場合のみ市がばい煙分析を実施することとしましたが、基準値の超過等は確認されていません。

2) 水環境（水質）

(1)公共水域の水質（河川）

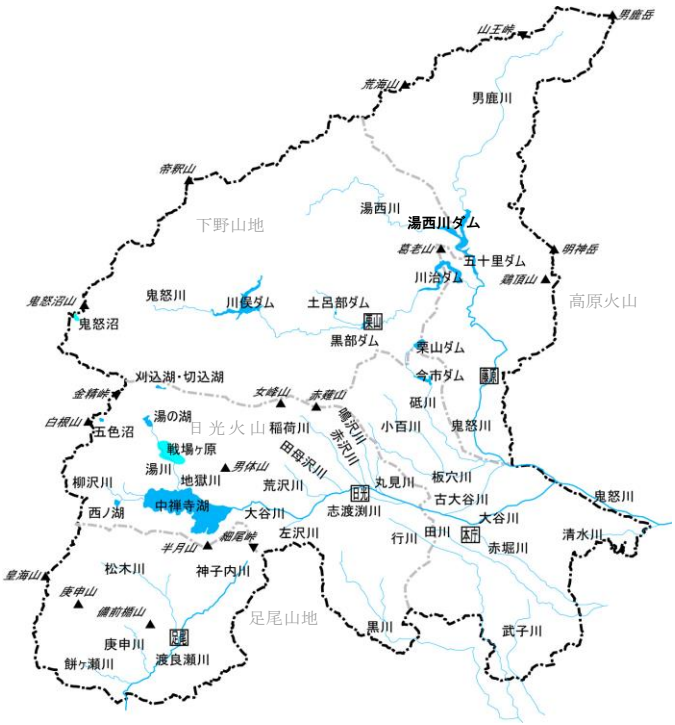
当市を流れる河川は、渡良瀬川と鬼怒川の2つの水系に分類されます。この鬼怒川には、日光・今市地域を流れる大谷川が合流します。また南部を流れる黒川や行川は、県南部で渡良瀬川に注いでいます。いずれも市内の山地を源流域としています。

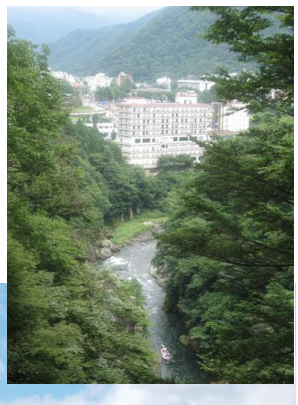
これらの水域の内、水質汚濁防止を図る必要のある公共用水域を対象に、国・県によって類型指定がなされ、その類型に応じて生活環境の保全に関する環境基準が適用されています。

なお、BOD年平均値では、市内の複数の河川が県内の上位になっており、下位になった河川はありません。

【市内河川の環境基準達成状況（BOD値による、令和元・2年度）】　出典：栃木県水質年表

水系	水域名	環境基準類型	環境基準地点	適合率（%）		75%値（mg/l）		平均値（mg/l）		5年間平均値（mg/l）	
				元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度
鬼怒川	鬼怒川1	AA イ	川治第一発電所前	100	100	0.5	0.8	0.6	0.6	0.5	0.7
	鬼怒川2	A イ	鬼怒川橋(宝積寺)(宇都宮市内)	100	100	0.6	0.8	0.6	0.7	0.8	0.8
	男鹿川	AA イ	末流（川治橋）	100	92	0.6	0.8	0.6	0.7	0.5	0.7
	板穴川	AA イ	末流	92	100	0.6	0.6	0.7	0.6	0.6	0.6
	湯川	A イ	末流	100	100	0.8	1.0	0.8	0.9	0.8	0.8
	大谷川	AA イ	開進橋（針貝）	92	100	0.7	0.6	0.7	0.6	0.6	0.6
	志渡渕川	B ロ	筋違橋	100	100	0.7	1.6	0.8	1.0	0.9	1.0
	田川上流	A イ	大曽橋（宇都宮市内）	83	92	1.3	1.8	1.1	1.5	1.6	1.7
	赤堀川	A ロ	木和田島	100	100	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.7
渡良瀬川	渡良瀬川上流	A イ	沢入発電所渡良瀬川取水堰	100	100	0.6	1.0	0.6	0.9	0.8	0.9
	渡良瀬川2	A イ	葉鹿橋（足利市内）	100	100	1.0	1.2	0.8	1.1	0.8	0.8
	神子内川	A イ	末流	100	100	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.6





(2)公共水域の水質（湖沼）

湖沼は閉鎖性水域であることから、COD値や大腸菌群数等に加えて、栄養塩類の全窒素及び全りんにも基準が設けられており、その指定の項目は湖沼によって異なります。栄養塩類や汚濁物質が停滞しやすいため、長期的変化に注目することの重要性も高くなります。

本市では、特に湯ノ湖の富栄養化が顕著であり、これまでに生活排水処理施設の完備、底泥の浚渫といった対策が実施されています。中禅寺湖においても、環境基準が達成されず、また過去に異臭味の発生がみられたことなどから、富栄養化の進行が懸念されています。

調査対象となっている3つの貯水池（人工湖）でも富栄養化が見られ、環境基準が未達成の項目があります。

「イ」:直ちに達成　「ロ」:5年以内で可及的速やかに達成
「ニ」:段階的に暫定目標を達成しつつ、環境基準の可及的速やかな達成に努める。

市内湖沼、環境基準類型指定水域一覧

水系	水域名（湖沼）	範囲	該当類型　達成期間	環境基準地点	設定年月日
鬼怒川	湯ノ湖	全域	A イ Ⅲ イ	湖心	平成28.3.25 県告示152号
	中禅寺湖	全域	AA イ Ⅰ イ	湖心	〃
	川治ダム貯水池	全域	Aイ Ⅱ イ	湖心	平成28.3.31 環告示41号
	川俣ダム貯水池	全域	A イ Ⅱ イ	湖心	平成15.3.27 環告示36号

市内湖沼、公共用水域水質調査地点一覧（環境基準に関わるもの）(注)平成28年3月指定見直し前の状況を示す。

水系	水域名	名称	環境基準類型	測定機関	種類
鬼怒川	湯ノ湖	St.1	A イ Ⅲ ロ	栃木県	補助地点
	湯ノ湖	St.2	A イ Ⅲ ロ	栃木県	補助地点
	湯ノ湖	St.3	A イ Ⅲ ロ	栃木県	補助地点
	湯ノ湖	St.4	A イ Ⅲ ロ	栃木県	補助地点
	湯ノ湖	St.5（湖心）	A イ Ⅲ ロ	栃木県	環境基準地点
	湯ノ湖	St.6	A イ Ⅲ ロ	栃木県	補助地点
	湯ノ湖	St.8	A イ Ⅲ ロ	栃木県	補助地点
	中禅寺湖	St.1	AA イ Ⅰ イ	栃木県	補助地点
	中禅寺湖	St.4	AA イ Ⅰ イ	栃木県	補助地点
	中禅寺湖	St.6（湖心）	AA イ Ⅰ イ	栃木県	環境基準地点
	中禅寺湖	St.7	AA イ Ⅰ イ	栃木県	補助地点
	川俣ダム貯水池	湖心	A イ Ⅱ イ	国土交通省	環境基準地点
	五十里湖	湖心	指定無し	国土交通省	補助地点
	川治ダム貯水池	湖心	Aイ Ⅱ ニ	国土交通省	環境基準地点

出典:いずれも栃木県水質年表

湖沼の水質変化

①中禅寺湖の水質（湖心・表層）

単位：mg/l、ただし大腸菌群数はMPN/100ml、透明度はm

調査項目　年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
COD〔75%値〕	1.4	1.1	1.2	1.3	1.6	1.6	1.1	1.5	1.5	1.2	1.6	1.6	1.6
SS	1	1	<1	1	1	1	<1	<1	<1	1	1	1	1
DO	9.5	9.6	9.6	9.5	10	9.7	9.9	9.6	9.7	9.9	9.7	9.8	9.6
大腸菌群数	55	130	2.8	4.8	8.6	17.4	13	53	16	14	8.2	108	110
全窒素	0.23	0.19	0.18	0.25	0.26	0.20	0.16	0.14	0.13	0.10	0.09	0.09	0.10
全りん	0.004	0.004	0.005	0.004	0.004	0.004	0.006	0.004	0.007	0.007	0.005	0.005	0.004
透明度	9.0	9.0	9.3	8.1	8.6	10.9	8.7	8.8	9.0	9.8	10	7.7	10.1

網掛け（枠内着色）は環境基準または暫定目標に不適合を表しています。環境基準AA類型及びⅠ類型に指定されていますが、窒素については当分の間は環境基準を適用しないとされています。令和2年度において、全窒素の環境基準を達成しています。

②湯ノ湖の水質（湖心・表層）

単位：mg/l、ただし大腸菌群数はMPN/100ml、透明度はm

調査項目　年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
COD〔75%値〕	2.8	2.2	2.0	2.1	2.2	2.3	2.3	1.7	2.9	2.3	2.5	3.0	2.9
SS	3	2	2	3	3	2	2	2	3	2	2	3	3
DO	11	10	10	11	11	9.8	10.4	9	10	11	10	11	11
大腸菌群数	116	82	82	37	43	172	210	35	57	33	39	42	190
全窒素	0.41	0.44	0.38	0.33	0.39	0.24	0.29	0.26	0.26	0.23	0.24	0.25	0.27
全りん	0.013	0.019	0.013	0.014	0.017	0.012	0.016	0.015	0.017	0.016	0.013	0.015	0.013
透明度	2.8	3.8	3.8	2.9	2.7	4.0	3.1	3.3	2.8	2.7	2.3	2.3	2.5

網掛け（枠内着色）は環境基準または暫定目標に不適合を表しています。

環境基準A類型及びⅢ類型に指定されています。平成22年度以降、全窒素の環境基準を達成しています。

③川俣ダム貯水池の水質（湖心・表層）

単位：mg/l、ただし大腸菌群数はMPN/100ml、透明度はm

調査項目　年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
COD〔75%値〕	1.5	1.7	1.9	1.6	1.6	1.7	1.6	1.5	2.4	2.0	1.7	1.6	1.8
SS	1	1	1	2	1	1	<1	1	1	1	1	4	2
DO	9.4	9.3	9.3	9.2	9.2	9.6	9.3	9.1	9.1	9.1	9.1	9.4	9
大腸菌群数	830	65	37	140	160	3	1500	1500	250	4900	950	580	650
全窒素	0.28	0.34	0.24	0.28	0.28	0.31	0.25	0.27	0.36	0.26	0.34	0.31	0.21
全りん	0.006	0.006	0.008	0.009	0.005	0.009	0.004	0.008	0.008	0.006	0.007	0.012	0.009
透明度	6.6	6.4	5.6	4.4	4.6	3.4	4.7	3.7	3.0	4.9	3.6	3.1	2.2

網掛け（枠内着色）は環境基準または暫定目標に不適合を表す。

④五十里ダムの水質（湖心・表層）

単位：mg/l、ただし大腸菌群数はMPN/100ml、透明度はm

調査項目　年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
COD〔75%値〕	1.6	1.8	2.4	1.9	2.2	2.6	2.2	2.1	2.3	2.6	1.9	2.1	2
SS	2	1	1	1	1	1	1	1	1	10	1	2	1
DO	10	10	9.9	9.9	10	9.9	9.9	9.6	9.8	9.4	9.8	9.8	9.7
大腸菌群数	1600	1000	12	1000	230	1000	240	300	670	850	96	740	180
全窒素	0.38	0.41	0.36	0.31	0.38	0.36	0.33	0.27	0.27	0.44	0.31	0.31	0.30
全りん	0.009	0.008	0.013	0.011	0.006	0.006	0.005	0.007	0.006	0.015	0.007	0.006	0.006
透明度	3.5	3.7	3.3	3.8	4.4	3.7	4.1	2.9	3.0	2.7	3.0	3.1	2.3

⑤川治ダム貯水湖の水質（湖心・表層）

単位：mg/l、ただし大腸菌群数はMPN/100ml、透明度はm

調査項目　年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
COD〔75%値〕	1.5	1.5	1.9	1.7	1.8	2.0	2.1	1.9	1.9	2.5	1.9	2.2	1.7
SS	1	1	1	2	1	2	1	1	1	2	1	20	3
DO	9.7	9.7	9.6	9.6	9.5	9.5	9.8	9.6	9.8	9.6	9.4	9.3	9.4
大腸菌群数	560	1400	9.6	1300	760	730	200	53	35	36	22	140	14
全窒素	0.38	0.38	0.35	0.38	0.38	0.39	0.32	0.30	0.28	0.29	0.35	0.39	0.27
全りん	0.008	0.005	0.008	0.011	0.007	0.013	0.007	0.008	0.009	0.008	0.011	0.030	0.011
透明度	2.9	5.0	4.8	2.8	2.5	2.1	2.8	3.6	4.2	3.8	2.6	2.2	2.1

網掛け（枠内着色）は環境基準または暫定目標に不適合を表す。

出典：いずれも栃木県水質年表

(3)市の公共用水域の水質調査

これらの国・県による水質調査の他、市は独自に公共用水域の水質調査を行っています。

大腸菌群数は全体的・通年的に、BOD値は部分的・時期的に、環境基準値に適合しない状況が見られます。

市内河川の環境基準値適合状況(市の独自調査)

河川	調査地点	BOD値環境基準達成状況		大腸菌群数環境基準達成状況		特記事項
		令和元年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度	
大谷川	和の代発電所取水口下	×	○	×	×	
	日光七里大橋上流500m	○	○	×	×	
	関の沢大橋	△	○	×	×	
大谷川支流	(日光地域)	※　下段表参照				
男鹿川	川治露天風呂下	○	○	×	×	
鬼怒川	万年橋上流300m	○	○	×	×	
	川俣温泉	○	○	×	×	
	川治ダム	×	×	×	×	
渡良瀬川	遠下橋	○	○	○	○	
	渡良瀬橋下	○	○	○	×	
砥川	佐下橋下流350m	○	○	×	×	
古大谷川	大桑町川室境	○	○	×	×	
赤堀川	日光市役所付近	○	○	×	×	
田川	日光地区森林組合下	○	○	×	×	
清水川	小林4区大橋下	○	○	×	×	
行川	小倉中内橋上流300m	○	○	×	×	
武子川	岩崎武子橋下	○	○	×	×	
小百川	小百橋上流50m	○	○	×	×	
湯西川	湯西川	○	○	×	×	
大谷川支流(日光地域)	志渡渕川	○	○	×	×	
	稲荷川	○	○	×	×	
	桜ヶ丘川	○	△	○	○	
	大尻川(中禅寺湖尻)	○	○	○	○	
	地獄川	○	○	○	×	
	湯川(菖蒲ガ浜)	○	○	×	○	
	湯川(湯ノ湖尻)	○	○	△	○	

○：適合　年平均が適合
△：年平均は適合だが不適合の時期もある
×：不適合　年平均が不適合

※大谷川支流（日光地域）については、年度ごとに各地点を2回ずつ（志渡渕川・稲荷川・桜ヶ丘川は１回ずつ）調査し、前表の年平均を算出しています。

(4)農業用水の水質調査

日光市では、農業用水の水質汚濁の状況を把握するために、独自に水質調査を行っています。令和元年度及び令和2年度における調査の結果では、鉛、カドミウム、全シアンは全ての調査で報告下限以下でした。

3）水環境（生活排水処理の状況）

生活排水の処理には下水道などによる集合処理と、合併処理浄化槽による個別処理があります。集合処理に関しては、今市、日光、藤原、栗山の4地域において、公共下水道事業として下水道の整備を図っています。

これら4地域の下水道計画区域外と足尾地域においては、合併処理浄化槽による個別処理を推進し、旧来のし尿くみ取り又は単独処理浄化槽の設備からの切り替えを進めています。

し尿くみ取り便槽や浄化槽から発生するし尿や浄化槽汚泥については、全量を環境センター（日光市町谷）で処理しています。

生活排水処理形態別の人口の推移

区　分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①計画処理区域内人口	（人）	85,782	84,445	83,217	82,199	80,981	79,820
②水洗化・生活雑排水処理人口	（人）	69,923	69,673	67,774	67,530	67,017	66,575
下水道人口	（人）	53,697	53,294	53,335	52,988	52,601	51,867
合併処理浄化槽人口	（人）	14,176	14,371	14,439	14,542	14,416	14,708
その他の集合処理人口	（人）	2,050	2,008	1,875	1,904	1,856	1,834
③単独処理浄化槽人口	（人）	4,704	3,708	4,892	4,127	3,476	2,817
④し尿収集人口	（人）	11,155	11,064	10,551	10,542	10,488	10,428
生活排水処理率(②/①×100)	（%）	81.5	82.5	81.4	82.2	82.8	83.4

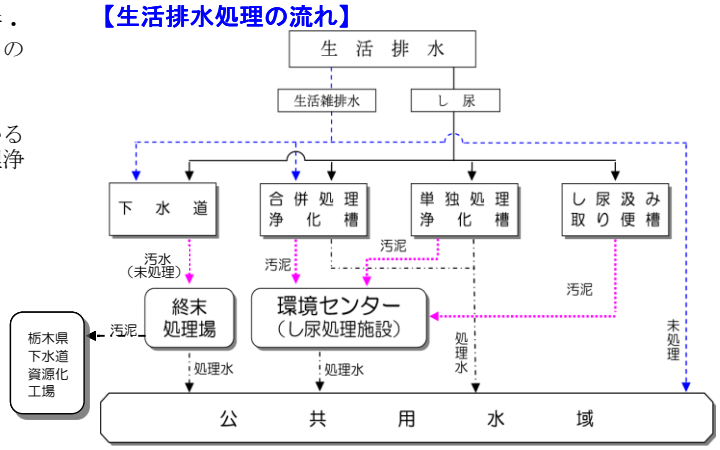
※生活排水処理率

し尿および生活雑排水（台所・風呂等）を処理している人口の割合を示します。

令和2年度で83.4%です。

生活雑排水の処理を行っている施設は、下水道及び合併処理浄化槽等です。

【生活排水処理の流れ】



流域関連公共下水道	市街地に整備され、集水された生活排水は、栃木県が処理主体となって鬼怒川上流浄化センター（日光市町谷）で処理されます。 日光市には、今市地域の今市処理区、日光地域の日光処理区、藤原地域の藤原処理区があります。
単独公共下水道	集水された生活排水は、市が処理主体となって処理区ごとに水処理センターで処理されます。市街地に整備される一般的な公共下水道として、日光地域の湯元処理区及び湯元水処理センター、中宮祠処理区及び中宮祠水処理センターがあります。 また、市街化区域外に整備される特定環境保全公共下水道として、藤原地域に川治処理区及び川治水処理センター、栗山地域に湯西川処理区及び湯西川水処理センターがあります。
合併処理浄化槽	建物ごとに設置され、個人が処理主体です。足尾地域と、今市地域、日光地域、藤原地域、栗山地域の中で下水道計画区域を除く地域において、普及を図っています。
し尿処理施設	環境センター（町谷）において、日光市内のし尿と浄化槽汚泥の全量を処理しています。処理主体は日光市です。
単独処理浄化槽	し尿のみの処理で生活雑排水は処理されません。そのため、集合処理や合併処理浄化槽に切り替えていくことが求められています。個人が処理主体です。
し尿くみ取り	生活雑排水は処理されないため、集合処理や合併処理浄化槽に切り替えていくことが求められています。個人が処理主体です。

4） 土壌環境・地下水環境・地盤環境の現況

(1)土壌環境

栃木県が、農用地の土壌環境及び、農用地を除く市街地等の土壌環境について、土壌汚染の調査を行っています。なお、県内では環境基準を超過する汚染は見られません。

(2)地下水環境

地下水の水質調査は、公共用水域と同様に県により、毎年度の測定計画（栃木県）に基づいて実施されています。

調査には、県内144箇所の概況調査と、汚染範囲拡大監視のための定期モニタリング調査があります。令和2年度の調査結果は次の通りです。

概況調査においては、全ての地点において環境基準値の超過はありませんでした。

定期モニタリング調査において、掲載を割愛した項目及び表中の空欄は報告下限以下です。他の項目では、小来川のフッ素が環境基準を超過しました。

概況調査水質測定結果　単位はmg/l

調査地（井戸）	鉛	セレン	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	フッ素	ホウ素
清滝地内			0.77		0.05
野口地内			1		
芹沼地内			1		0.04
室瀬地内			1.2		
針貝地内			0.59		0.05
根室地内			3.3		
宮小来川地内			2.3		0.01
小代地内			0.93		
猪倉地内			1.6		

定期モニタリング調査水質測定結果　単位はmg/l

調査地（井戸）	調査時期	フッ素	ひ素
小来川	前期	0.98	
	後期	1.9	

出典：いずれも栃木県水質年表

県による地下水調査のほか、市は独自に地下水や湧水の水質調査を行っています。

一般の井戸を対象とした調査は、令和元年度及び令和2年度には8箇所で行いました。重金属や農薬などの健康項目の環境基準の超過は見られませんでした。

産業廃棄物処理施設の下流を対象とした調査は、令和元年度に6箇所、令和2年度に5箇所で行いました。有害物質項目の基準値の超過は見られませんでした。

湧水の水質調査は、令和元年度に18箇所、令和2年度に15箇所で行いました。調査の結果、有害物質等の検出はありませんでした。

(3)地盤環境（地盤沈下）

県では地盤沈下の観測を行ってきています。日光市の平野部（今市扇状地や谷底平野）は砂礫質の堆積物からなる安定した地盤で、圧密沈下の対象となる泥質地盤や問題となる地盤沈下が見られないことから、観測対象とはなっていません。

5） その他生活環境

(1)騒音・振動

工場・事業場及び特定建設作業の騒音・振動に係る規制の事務は市が担当し、事業者に対する指導を行っています。なお、著しい騒音・振動の問題は見られません。

(2)悪臭

悪臭に係る規制の事務は市が担当し、事業者などに対する指導を行っています。なお、悪臭の問題については適宜対応し、改善に努めています。

(3)有害化学物質

ダイオキシン類や有害化学物質の環境基準超過など、著しい問題は見られません。また、国・県では、化学物質の管理対策として、PRTR制度に基づいた化学物質の排出量を推計、公表しています。

(4)アスベスト

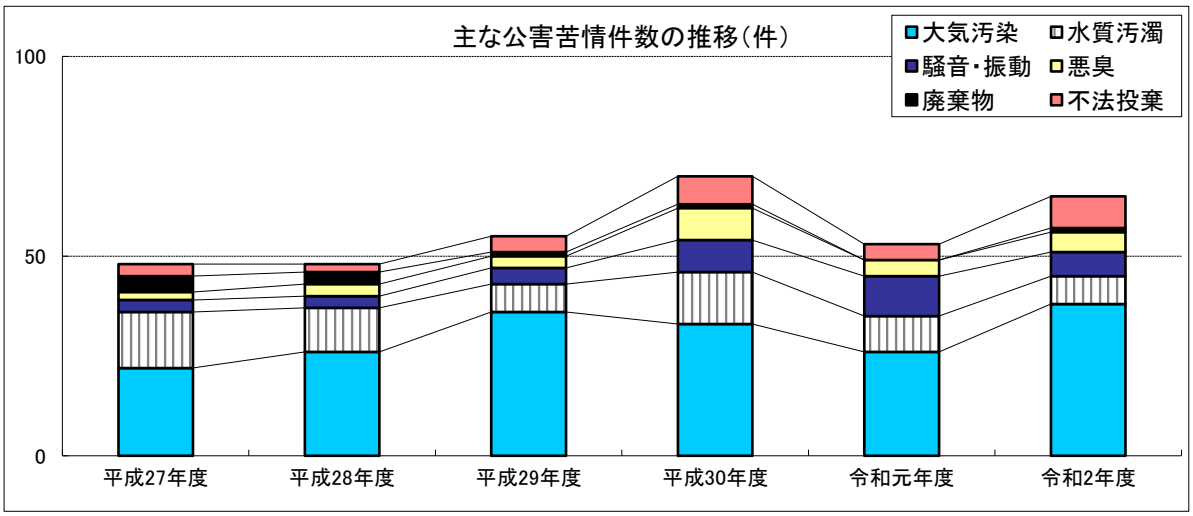
アスベストによる健康被害等は見られません。

(5)公害苦情件数

公害などに関して市に寄せられた苦情の状況は次の通りです。

公害苦情件数

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	R元→R2年度増減数
大気汚染	22	26	36	33	26	38	12
水質汚濁	14	11	7	13	9	7	−2
土壌汚染	0	2	0	1	0	0	0
騒音・振動	3	3	4	8	10	6	−4
悪臭	2	3	3	8	4	5	1
廃棄物	4	3	1	1	0	1	1
不法投棄	3	2	4	7	4	8	4
害虫	0	0	0	1	0	0	0
アスベスト	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	0	0	0	0	0
合計	51	50	55	72	53	65	12



6) 水を守る活動等

当市は、鬼怒川や渡良瀬川の水系の上流地帯に位置し、源流域や水源かん養地帯となっています。

こうした水源地帯でかん養された水量豊かな地表水をはじめ、今市扇状地の豊かな地下水や多くの湧水などの水資源に恵まれています。

また、湯ノ湖、中禅寺湖などの湖沼や数多くの滝、渓流・渓谷など、自然豊かで風光明媚な水辺環境が引き継がれ、市民や来訪者に様々な恵みをもたらしています。

こうした水環境を保全していくために、市民・市民団体・事業者・滞在者と行政が協力して、さまざまな取り組みや活動を進めています。

(1)奥日光清流清湖保全協議会

奥日光は、日光国立公園内でも特に風光明媚な地域で、季節ごとに多種多様な景観に彩られる自然探勝の名所として広く知られています。

日光市と栃木県では、こうした自然の恵みと美しい水環境を将来にわたって守り続けていくため、平成7年に国や地域団体などの協力を得て「奥日光清流清湖保全協議会」を設立しました。

奥日光清流清湖保全協議会では、奥日光水域の保全対策を総合的に進めるため、「奥日光清流清湖保全計画」を策定し、地域住民や行政関係者などの幅広い協力の下で水質保全活動を行っています。

奥日光清流清湖保全協議会による湯ノ湖のコカナダモ刈り

コカナダモ

関東以西の湖沼、河川などの浅い水中に群生する沈水性の多年草で、アメリカ北東部原産の帰化植物。低温や水流に耐え、そのままで越冬する。茎葉は折れやすいが、繁殖力が強く、そのまま根付いて増える。

藻類は生育時には栄養塩類を吸収し、水質浄化作用があると考えられるが、枯れると湖底に堆積し汚濁の原因となっている。

(2)湧水ボランティア

日光市の水環境は、源流域としての役割があり、日光連山に降り注いだ水が湯ノ湖・中禅寺湖などの湖沼、華厳滝を始めとする滝、様々な河川に流れ出すとともに、地下に浸み込み扇状地での湧水や地下水として脈々と流れ続けています。

このような中、扇状地の豊かな湧水を守っていくために、湧水ボランティアが湧水の調査をしています。活動内容は湧水に係る研修や、9つのグループごとに年4回湧水地の水量や温度、周囲の状況を記録し、湧水地の保全に役立てることを目的にしています。

(3)水環境保全活動

奥日光清流清湖保全協議会や湧水ボランティアの活動のほか、市民・市民団体・事業者・滞在者と行政が協力して、水環境の保全活動を各地域で進めています。

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
湧水ボランティア（人）	37人	33人	28人	28人	28人	27人	27人
水質保全活動実施回数	14回	14回	16回	16回	14回	11回	11回